試験対策（伝票・仕訳日計表）

総勘定元帳や補助元帳への転記を問う問題です。

例題　**次の2030年3月1日における取引に関して、仕訳日計表を作成し、現金勘定、売掛金勘定、買掛金勘定と売掛金元帳を完成しなさい（総勘定元帳の各勘定と売掛金元帳の締切は行わないこと）。なお、現金勘定の月初残高は50,000円、売掛金勘定の月初残高は49,000円、買掛金勘定の月初残高は20,000円であった。また、売掛金元帳の沖縄社勘定の月初残高は18,000円、長崎社勘定の月初残高は12,000円、大分社勘定の月初残高は19,000円であった。**

入金伝票　No.101
売掛金(沖縄社)　1,000

入金伝票　No.102
売掛金(長崎社)　2,000

入金伝票　No.103
売掛金(大分社)　3,000

出金伝票　No.201
買掛金(大阪社)　1,500

出金伝票　No.202
買掛金(京都社)　2,500

出金伝票　No.203
買掛金(大阪社)　3,500

振替伝票　No.501
受取手形　5,000
売掛金(沖縄社)　5,000

振替伝票　No.502
買掛金(滋賀社)　4,500
支払手形　4,500

振替伝票　No.503
買掛金(滋賀社)　1,700
売掛金(大分社)　1,700

振替伝票　No.504
売掛金(沖縄社)　1,000
売　　上　1,000

振替伝票　No.505
売掛金(大分社)　4,000
売　　上　4,000

振替伝票　No.506
売掛金(大分社)　5,000
売　　上　5,000

振替伝票　No.507
仕　　入　4,500
買掛金(滋賀社)　4,500

振替伝票　No.508
仕　　入　2,500
買掛金(京都社)　2,500

振替伝票　No.509
仕　　入　5,500
買掛金(大阪社)　5,500

・起票

仕訳形式で示します。売掛金勘定の下の括弧書きは売掛金元帳の勘定を示しています。

	No.	借方科目	金額	貸方科目	金額
入金伝票	101	現　　金	1,000	売 掛 金 （沖縄社）	1,000
	102	現　　金	2,000	売 掛 金 （長崎社）	2,000
	103	現　　金	3,000	売 掛 金 （大分社）	3,000
出金伝票	201	買 掛 金	1,500	現　　金	1,500
	202	買 掛 金	2,500	現　　金	2,500
	203	買 掛 金	3,500	現　　金	3,500
振替伝票	501	受取手形	5,000	売 掛 金 （沖縄社）	5,000
	502	買 掛 金	4,500	支払手形	4,500
	503	買 掛 金	1,700	売 掛 金 （大分社）	1,700
	504	売 掛 金 （沖縄社）	1,000	売　　上	1,000
	505	売 掛 金 （大分社）	4,000	売　　上	4,000
	506	売 掛 金 （大分社）	5,000	売　　上	5,000
	507	仕　　入	4,500	買 掛 金	4,500
	508	仕　　入	2,500	買 掛 金	2,500
	509	仕　　入	5,500	買 掛 金	5,500

・仕訳日計表

仕　訳　日　計　表

2030年3月1日

借　方	元丁	勘　定　科　目	元丁	貸　方
6,000	1	現　金	1	7,500
5,000	省略	受　取　手　形		
10,000	4	売　掛　金	4	12,700
		支　払　手　形	省略	4,500
13,700	8	買　掛　金	8	12,500
		売　上	省略	10,000
12,500	省略	仕　入		
47,200				47,200

・総勘定元帳

仕訳日計表から総勘定元帳の各勘定へ**合計金額**を転記します。

現　金　1

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	1	前月繰越	50,000	3	1	仕訳日計表	7,500
	〃	仕訳日計表	6,000				

売　掛　金　4

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	1	前月繰越	49,000	3	1	仕訳日計表	12,700
	〃	仕訳日計表	10,000				

買　掛　金　8

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
3	1	仕訳日計表	13,700	3	1	前月繰越	20,000
					〃	仕訳日計表	12,500

・売掛金元帳

各伝票から補助元帳へ転記を行います。

売　掛　金　元　帳

沖縄社　　1

日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	18,000		借	18,000
	〃	入金伝票		1,000	〃	17,000
	〃	振替伝票		5,000	〃	12,000
	〃	振替伝票	1,000		〃	13,000

長崎社　　2

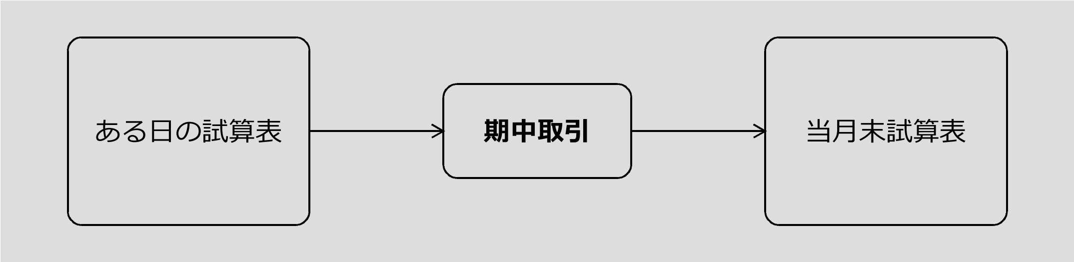
日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	12,000		借	12,000
	〃	入金伝票		2,000	〃	10,000

大分社　　3

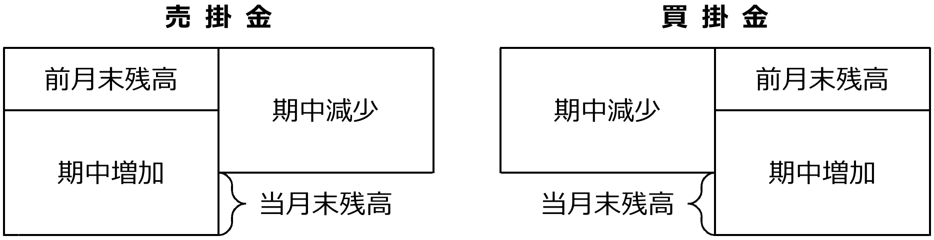
日付		摘　要	借　方	貸　方	借または貸	残　高
3	1	前月繰越	19,000		借	19,000
	〃	入金伝票		3,000	〃	16,000
	〃	振替伝票		1,700	〃	14,300
	〃	振替伝票	4,000		〃	18,300
	〃	振替伝票	5,000		〃	23,300

試験対策（試算表）

試算表の作成は第3問に出題されることが多いです。ある一時点の試算表が与えられ、ある一定期間の期中取引の処理を行い、試算表を作成する問題が多いです。なお、試算表には、残高試算表、合計試算表、合計残高試算表がありますので、どの試算表が問われているのかをしっかり確認して解いて下さい。



期中取引仕訳を行い、それを集計して、試算表を作成していきます。処理しなければならない期中取引が多い場合、そのすべてに仕訳を行うと、時間がかかります。そこで、以下のようなT勘定を設定して、そこで仕訳と集計を行うという解法があります。なお、その場合、すべての勘定についてT勘定を設定するのではなく、問題の期中取引で何度も使われる勘定科目について設定すれば良いでしょう。



（１）残高試算表の作成

例題　**2030年5月31日の残高試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

残　高　試　算　表

2030年4月30日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
50,000	現　　　金	
123,000	当　座　預　金	
234,000	受　取　手　形	
345,000	売　掛　金	
	売　　　上	700,000

2030年5月の取引

１．売上取引

掛け売上10,000円、当座売上15,000円、現金売上18,000円、手形売上20,000円

２．売掛金の決済

当座預金による回収28,000円、手形による回収50,000円

３．受取手形の決済

当座預金による回収60,000円

・仕訳による解法

5月の期中取引仕訳を行い、それを集計して5月末の残高試算表を作成します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　掛　金	**10,000**	**売　　　上**	**63,000**
当　座　預　金	**15,000**		
現　　　金	**18,000**		
受　取　手　形	**20,000**		
当　座　預　金	**28,000**	**売　掛　金**	**78,000**
受　取　手　形	**50,000**		
当　座　預　金	**60,000**	**受　取　手　形**	**60,000**

現　　金：50,000＋18,000＝68,000

当座預金：123,000＋15,000＋28,000＋60,000＝226,000

受取手形：234,000＋20,000＋50,000－60,000＝244,000

売 掛 金：345,000＋10,000－78,000＝277,000

売　　上：700,000＋63,000＝763,000

・T勘定による解法

仕訳による解法ですと、仕訳とその集計が必要となります。そこで、T勘定を設定し、直接、T勘定に処理を行う方法だと処理のスピードが速くなります。

例えば、「当座預金60,000 / 受取手形60,000」という仕訳の場合、仕訳を書かずに、当座預金勘定（資産）の借方に60,000円、受取手形勘定の貸方に60,000円を直接記入します。そして、すべての処理が終わったら、各勘定の貸借差額で残高を算定します。

現　　金

50,000		68,000
18,000		

当座預金

123,000		226,000
15,000		
28,000		
60,000		

受取手形

234,000	60,000	
20,000		244,000
50,000		

売 掛 金

345,000	78,000	
10,000		277,000

売　　上

763,000		700,000
		63,000

残　高　試　算　表

2030年5月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
68,000	現　　　　金	
226,000	当　座　預　金	
244,000	受　取　手　形	
277,000	売　　掛　　金	
	売　　　　上	763,000

（２）合計試算表の作成

例題　**2030年5月31日の合計試算表を作成しなさい。なお、決算日は12月31日である。**

合　計　試　算　表

2030年4月30日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
61,000	現　　　　　金	11,000
423,000	当　座　預　金	300,000
454,000	受　取　手　形	220,000
845,000	売　　掛　　金	500,000
	売　　　　　上	700,000

2030年5月の取引

１．売上取引

掛け売上10,000円、当座売上15,000円、現金売上18,000円、手形売上20,000円

２．売掛金の決済

当座預金による回収28,000円、手形による回収50,000円

３．受取手形の決済

当座預金による回収60,000円

・仕訳による解法

5月の期中取引仕訳を行い、それを集計して5月末の残高試算表を作成します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	**10,000**	**売　　　　　上**	**63,000**
当　座　預　金	**15,000**		
現　　　　　金	**18,000**		
受　取　手　形	**20,000**		
当　座　預　金	**28,000**	**売　　掛　　金**	**78,000**
受　取　手　形	**50,000**		
当　座　預　金	**60,000**	**受　取　手　形**	**60,000**

現　　金：(借方)61,000＋18,000＝79,000

　　　　　(貸方)11,000

当座預金：(借方)423,000＋15,000＋28,000＋60,000＝526,000

　　　　　(貸方)300,000

受取手形：(借方)454,000＋20,000＋50,000＝524,000

(貸方)220,000＋60,000＝280,000

売 掛 金：(借方)845,000＋10,000＝855,000

(貸方)500,000＋78,000＝578,000

売　　上：(貸方)700,000＋63,000＝763,000

・T勘定による解法

残高試算表の作成の場合と解法は同じです。ただし、合計試算表の作成ですので、すべての処理が終わったら、各勘定の借方合計と貸方合計を算定することになります。

現　　金

61,000	11,000
18,000	

79,000（借方合計）

当座預金

423,000	300,000
15,000	
28,000	
60,000	

526,000（借方合計）

受取手形

454,000	220,000
20,000	60,000
50,000	

524,000（借方合計）　280,000（貸方合計）

売 掛 金

845,000	500,000
10,000	78,000

855,000（借方合計）　578,000（貸方合計）

売　　上

	700,000
	63,000

763,000（貸方合計）

合　計　試　算　表

2030年5月31日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
79,000	現　　　　　金	11,000
526,000	当　座　預　金	300,000
524,000	受　取　手　形	280,000
855,000	売　　掛　　金	578,000
	売　　　　　上	763,000